

試合規約
ジュニア

真正会全日本大会ルール表 2026

判定基準の優劣順位を以下の通りとする。―

①「技有り」の有無②「技有り」にはいたらないが、正確な攻撃でダメージ度の高いもの。または試合の主導権をにぎっているもの。③「減点」の有無④主導権の中で、手数、圧力、技術力、有効打撃の中で、どれかが勝っているもの。⑤勝利への気迫

①	>	②	=	③	>	④	>	⑤
優			→					劣

勝者は、一本勝ち、判定勝ち、相手の反則、失格により決定する。―

(1) 一本勝ち

・相手の攻撃のダメージにより試合が続行不可能になった場合。・技ありを 2 本とった場合。・自身の攻撃によるダメージにより試合が続行不可能になった場合。

(2) 技有り

・上段への蹴り技が強く正確にヒットした場合。(上段への膝蹴りは禁止)・ダウンしなくても、打撃が入り一瞬続行不能になった場合。

(3) TKO(テクニカル・ノックアウト) 選手は、以下の場合にTKO(テクニカル・ノックアウト)となる。

①選手の一方が著しく優勢な場合は、主審の判断により、試合終了を待たずに勝者を決定することができる。

②選手が負傷や大きなダメージにより大会医師が試合続行不可能と判断した場合。(ドクターストップ)

(4) 判定勝ち

・試合時間内一本勝ちやTKO、失格で勝敗が決まらなかった場合は審判団の判定により勝敗を決する。・どちらかの選手が、審判団数の過半数以上の賛同を得た場合に勝利となる。それ以外は、引き分けとする。

反則による減点ならびに注意

反則には注意1が与えられ、以下の分類にて3種類に分けられる。

Ⓐ危険行為による反則※反則規定をご参照ください。

Ⓑ掴み等に関わる反則※反則規定をご参照ください。

Ⓒその他の違反行為の反則

ⒶⒷⒸの反則行為はすべて合計して計算され注意 2 で減点1 注意 4 で減点2 の失格とする。(例：顔面殴打注意 1 + 押し注意 1 で減点 1 = 減点 1 顔面殴打注意 3 + 掴み注意 4 で減点 1 = 減点 2 で失格となる)※反則の種類や度合い、悪質であると判断された場合には、即刻減点、もしくは失格となる場合もある。違反行為も審判が悪質であると判断した場合は、危険行為として反則に合算する場合もある。

※体重オーバーについて

・体重別の階級で受付計量時に出場階級より700g以内でオーバーの場合は減点1で試合を行う。

・700g より超えた場合は失格となり出場出来ません。試合開始30分前まで再計量可。
※計量は連衣の下と上は T シャツ 1 枚で計量し着衣分900gで行う。(例：30 kg未満の場合 30.9 kgまで計量 OK)

反則規定

Ⓐ危険行為による反則

①蹴り以外の顔面及び喉への殴打。

(手、肘、腕、による首から上への攻撃。首への攻撃は反則となる。有効技以外による殴打)
故意であるなしに関わらず厳しく注意をとる。

②頭突きによる攻撃。

③男子選手の金的への攻撃。及び、女子選手の下腹部への攻撃。

但し、男子の出場選手には金的ファールカップ、女子の出場選手にはアンダーガードの着用を義務付ける。女子選手の下腹部とは、帯から下(ヘソから下)から足の付け根の辺りまでの鼠蹊部(そけいぶ)の事をいう。カップやアンダーガード着用の上で金的や下腹部への攻撃を受けた場合、反則した選手に注意が与えられるが、ダメージが大きくて試合を続行出来ない時は、自己の不注意による試合続行不可能として相手選手の勝ち扱いとなる場合もある。

④上段への膝蹴り。

⑤倒れた相手へ直接打撃を加えたとき。

⑥関節部分に関節技、あるいは首への締め技をかけること。

⑦背後からの攻撃 相手選手が完全に無防備に後を向いてしまった場合には、攻撃してはいけないが後ろを向いてしまった選手には戦意放棄と見なし「場外」と同じ扱い

の注意が与えられる。

⑧試合終了、あるいは主審の止めのコール後や相手が場外に出たのに攻撃すること。

※但し、プロテクターが外れたり、あるいは場外になるときに、気を抜いて相手の攻撃によりダメージを受けた場合は、審判の判断により、技有り、又は一本になる場合もあるので絶対に気を抜かないこと。試合中に気を抜いた選手には、戦意放棄と見なした警告が与えられる。

Ⓑ掴み等に関わる反則

①道衣を掴む行為

②相手を掴んで投げること。

③両手で相手を押す行為(攻撃へ繋げる為の一瞬の片手の押しは可能、攻撃につながらない押すだけの行為は反則となります) 相手の腕を押さえる行為や、拳で相手を押さえる行為も掴みの反則に含む。

④胸を付ける行為は反則とする。

⑤頭を付けての打合いは反則とする。

Ⓒその他の違反行為に関わる反則

①故意に場外に逃げること。(場外注意) 場外注意は、3 回目で注意 1、4 回目で減点 1、5 回目で失格とする。

②技の掛け逃げは、反則として注意をとる。
自分が技を掛けた後、倒れ込んでしまう様な技(胴回し回転蹴り等)は相手の攻撃が効いた時など苦し紛れや休む為に出した場合「掛け逃げ」と判断する。最初の 1 回は注意を取らず警告を促し、2 回目からは注意を取る。

③選手の掛け逃げに関しては、注意3で減点1とする。

④過度な反則のアピールは、度が過ぎると注意、減点の対象となる。
選手は武道である空手の大会に出場しており、勝つために相手に相手選手の微少な反則(軽く手が顔に触れただけや軽い金的攻撃で大きさに痛がる等)を過剰に反則を審判にアピールする行為は非常に見苦しく空手道精神に反する。

虚偽の反則アピールも減点、失格の対象になります。(下段のダメージをごまかすために金的を押さえてうずくまる等)

⑤虚偽の反則アピールも減点、失格の対象になります。(下段のダメージをごまかすために金的を押さえてうずくまる等)

⑥以上の他、審判員が反則だと見なした行為。

失格について

①試合中、審判員の指示に従わない時。

②見合ったままの状態で30秒以上経過し双方注意の後、その後も戦意無しの場合、双方失格となる。

③粗暴な振る舞い、悪質な試合態度とみなされた時。

④減点を2回重ねた時。

⑤反則攻撃により、相手選手が負傷して試合続行不可能になった場合。

試合時間の規定を以下の通りとする。―

試合時間の規定を以下の通りとする。

	ジュニア全試合		
	本選	延長	再延長
上 級	1分30秒	1分(マスト)	1分(マスト)
中 級	1分30秒	1分(マスト)	なし
チャレンジ・ビギナー・初級	1分	1分(マスト)	なし

マスト=マストシステム、必ず赤白どちらかに判定が上がります。

防具の規定を以下の通りとする。―

試合直前、試合中に着用義務の防具を着用していない場合や不備が見つかった場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。

○着用義務(各自用意) △体格により装着が困難な場合は着用しなくて良い

スネ、ヒザ、拳サポーターはプラスチック、革素材不可、布スポンジ製に限る。試合直前、試合中に打撃面の劣化が激しかった場合や防具としての機能が損なわれている場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。

※ヘッドガードは白色の物を使用すること。前面に金属、プラスチックが使われている物は使用禁止※貸出あり インナーチェストは胸部のみ保護されている物のみ使用可能。胴回りを保護しているタイプは使用不可。※貸出あり 明らかに体より大きい物を使用しており体全体をカバーしてしまっている場合も使用できません※貸し出しあり

	スネサポーター	ヒザサポーター	拳サポーター	インナーチェスト	面有り ヘッドガード	金的サポーター	アンダーガード	金具材使用禁止	空手用 スポンジブラ	大会用 グロブ(真正会公認グローブ)
幼年	○	△	○	○	○	△	△	—	—	—
男子 小学1年	○	△	○	○	○	△	—	—	—	—
男子 小学2～6年	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
男子 中学生	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
女子 小学1年	○	△	○	○	○	—	△	—	—	—
女子 小学2～6年	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
女子 中学生	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—

判定基準の優劣順位を以下の通りとする。―

①「技有り」の有無②「技有り」にはいたらないが、正確な攻撃でダメージ度の高いもの。または試合の主導権をにぎっているもの。③「減点」の有無④主導権の中で、手数、圧力、技術力、有効打撃の中で、どれかが勝っているもの。⑤勝利への気迫

①	>	②	=	③	>	④	>	⑤
優			→					劣

勝者は、一本勝ち、判定勝ち、相手の反則、失格により決定する。―

(1) 一本勝ち

・相手の攻撃のダメージにより試合が続行不可能になった場合。・技ありを 2 本とった場合。・自身の攻撃によるダメージにより試合が続行不可能になった場合。

(2) 技有り

・ダウンしなくても、打撃が入り一瞬続行不能になった場合。・自身の攻撃によるダメージにより一瞬続行不能になった場合。

(3) TKO(テクニカル・ノックアウト) 選手は、以下の場合にTKO(テクニカル・ノックアウト)となる。

①選手の一方が著しく優勢な場合は、主審の判断により、試合終了を待たずに勝者を決定することができる。

②選手が負傷や大きなダメージにより大会医師が試合続行不可能と判断した場合。(ドクターストップ)

(4) 判定勝ち

・試合時間内一本勝ちやTKO、失格で勝敗が決まらなかった場合は審判団の判定により勝敗を決する。・どちらかの選手が、審判団数の過半数以上の賛同を得た場合に勝利となる。それ以外は、引き分けとする。

反則による減点ならびに注意

反則には注意1が与えられ、以下の分類にて3種類に分けられる。

Ⓐ危険行為による反則※反則規定をご参照ください。

Ⓑ掴み等に関わる反則※反則規定をご参照ください。

Ⓒその他の違反行為の反則

ⒶⒷⒸの反則行為はすべて合計して計算され注意3で減点1 注意 4 で減点 2 の失格とする。(例：顔面殴打注意 1、金的攻撃注意 1、掴み注意 1 で減点 1。減点 1 後の全ての反則行為は注意 4 の減点 2 で即失格となる)※反則の種類や度合い、悪質であると判断された場合には、即刻減点、もしくは失格となる場合もある。違反行為も審判が悪質であると判断した場合は、危険行為として反則に合算する場合もある。

※体重オーバーについて

・体重別の階級で受付計量時に出場階級より700g以内でオーバーの場合は減点1で試合を行う。

・700g より超えた場合は失格となり出場出来ません。試合開始30分前まで再計量可。

※計量は連衣の下と上は T シャツ 1 枚で計量し着衣分900gで行う。(例：30 kg未満の場合 30.9 kgまで計量 OK)

反則規定

Ⓐ危険行為による反則

①蹴り以外(一般男子クラス以外の上段への膝蹴りは反則)の顔面及び喉への殴打。

(手、肘、腕、による首から上への攻撃。首への攻撃は反則となる。有効技以外による殴打)
故意であるなしに関わらず厳しく注意をとる。

②頭突きによる攻撃。

③男子選手の金的への攻撃。及び、女子選手の下腹部への攻撃。

但し、男子の出場選手には金的ファールカップ、女子の出場選手にはアンダーガードの着用を義務付ける。女子選手の下腹部とは、帯から下(ヘソから下)から足の付け根の辺りまでの鼠蹊部(そけいぶ)の事をいう。カップやアンダーガード着用の上で金的や下腹部への攻撃を受けた場合、反則した選手に注意が与えられダメージのある選手には、1試合～2 試合の休憩時間を与える措置をとる。
カップやアンダーガードの着用義務を怠り、金的や下腹部への攻撃を受けた場合は、反則した選手に注意が与えられるが、ダメージが大きくて試合を続行出来ない時は、自己の不注意による試合続行不可能として相手選手の勝ち扱いとなる場合もある。

④一般男子クラス以外での上段への膝蹴り。

⑤倒れた相手へ直接打撃を加えたとき。

⑥関節部分に関節技、あるいは首への締め技をかけること。

⑦背後からの攻撃 相手選手が完全に無防備に後を向いてしまった場合には、攻撃してはいけないが後ろを向いてしまった選手には戦意放棄と見なし「場外」と同じ扱い

試合規約
マスターズ

真正会全日本大会ルール表 2026

の注意が与えられる。

⑧試合終了、あるいは主審の止めのコール後や相手が場外に出たのに攻撃すること。

※但し、プロテクターが外れたり、あるいは場外になるときに、気を抜いて相手の攻撃によりダメージを受けた場合は、審判の判断により、技有り、又は一本になる場合もあるので絶対に気を抜かないこと。試合中に気を抜いた選手には、戦意放棄と見なした警告が与えられる。

Ⓑ掴み等に関わる反則

①両手による掴み。

片手による掴みは、攻撃のための瞬間的なものを認めるが、それ以外は反則とする。両手による掴みは首相撲も含め反則。
引っ掛けに関しては、全て開手のみで行う事とする。一瞬の引っ掛けに関しては、手刀、育刀、育手、掌手の部分(手首の折れ曲る部分から先の部分)で一瞬のみ認める。手の平部分での頭部に対しての打ち込み、押し込み、引っ張り込みについては反則とする。但し、一瞬の技を出す為の引っ掛けは有効である。
手首(折れ曲がる部分) から肘の間で瞬時でも引っ掛ける場合は抱え込みとなり反則となる。

②両手で相手を掴んで投げること。

但し、片手で袖口を掴んで足払いをかけて倒して決めた上、残心を取った場合や崩して突き、蹴りを入れた場合は判定材料で有効となる。(瞬間的に技を掛けないで掴みの反則となる)

③掌底で相手を押す行為

(攻撃へ繋げる為の一瞬の片手の押しは可能、攻撃につながらない押すだけの行為は反則となります) 相手の腕を押さえる行為や、拳で相手を押さえる行為も掴みの反則に含む。

④胸を付ける行為は反則とする。

⑤頭を付けての打合いは反則とする。

Ⓒその他の違反行為に関わる反則

①故意に場外に逃げること。(場外注意) 場外注意は、3 回目で注意 1、4 回目で減点 1、5 回目で失格とする。

②技の掛け逃げは、反則として注意をとる。

自分が技を掛けた後、倒れ込んでしまう様な技(胴回し回転蹴り等)は相手の攻撃が効いた時など苦し紛れや休む為に出した場合「掛け逃げ」と判断する。最初の 1 回は注意を取らず警告を促し、2 回目からは注意を取る。

③選手の掛け逃げに関しては、注意3で減点1とする。

④過度な反則のアピールは、度が過ぎると注意、減点の対象となる。
選手は武道である空手の大会に出場しており、勝つために相手に相手選手の微少な反則(軽く手が顔に触れただけや軽い金的攻撃で大きさに痛がる等)を過剰に反則を審判にアピールする行為は非常に見苦しく空手道精神に反する。

虚偽の反則アピールも減点、失格の対象になります。(下段のダメージをごまかすために金的を押さえてうずくまる等)

⑤虚偽の反則アピールも減点、失格の対象になります。(下段のダメージをごまかすために金的を押さえてうずくまる等)

⑥以上の他、審判員が反則だと見なした行為。

試合時間の規定を以下の通りとする。―

試合時間の規定を以下の通りとする。

	全試合	
	本選	延長
・マスターズ 全試合	1分30秒	1分30秒(マスト)

マスト=マストシステム、必ず赤白どちらかに判定が上がります。

防具の規定を以下の通りとする。―

試合直前、試合中に着用義務の防具を着用していない場合や不備が見つかった場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。

○着用義務(各自用意)

スネ、ヒザ、拳サポーターはプラスチック、革素材不可、布スポンジ製に限る。試合直前、試合中に打撃面の劣化が激しかった場合や防具としての機能が損なわれている場合、減点の対象となる場合がありますのでご注意ください。

	スネサポーター	ヒザサポーター	拳サポーター	インナーチェスト	面有り ヘッドガード	金的サポーター	アンダーガード	金具材使用禁止	空手用 スポンジブラ	大会用 グロブ(真正会公認グローブ)
マスターズ 男子	○	○	—	—	○	○	—	—	—	※
マスターズ 女子	○	○	—	—	○	—	○	○	○	※

※40 歳以上～男子、女子は大会用公認グローブ使用になります。【貸出あり】

・ヘッドガードは白色の物を使用する事。前面に金属、プラスチックが使われている物は使用禁止。【貸出あり】

・男子は T シャツ着用不可 (ジュニア男子クラスはインナーチェストのみ着用)